

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0692700024		
法人名	株式会社 アクト		
事業所名	グループホーム さわやか		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字萩生4284-3番地		
自己評価作成日	平成 29年 12月 25日	開設年月日	平成 24年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、畑や花壇等があり、旬の味を楽しんで頂いている。隣接して医療機関があり、密な連携が取れており、急変時や有事の際には素早い対応が可能となっている。又、施設長が看護師であり、近郊に居住している事から24時間の対応が可能。地域の住民の方や地区とも交流があり協力体制が出来ている。個性を尊重し、その人がその人らしく入居者主体の生活が送れるよう支援している。役割を持ち生きがいを感じながら生活出来るよう個々の能力や状態の把握に努め、ホーム内ばかりで生活するのではなく、外出や散歩等戸外での活動機会を多く取り入れている。又、外出は個別でも対応しており、より個性を尊重した関わりに対応している。入居者同士で手を取り合いながら生活出来る、明るく楽しい笑顔の絶えないホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールでは利用者が穏やかに癒しの音楽を聴きながらゆっくり寛ぎ、職員は傍らで寄り添い笑顔で会話をしながら思いを受け止め、掃除や調理など出来ることを手伝ってもらい満足感をもってその人らしく過ごせるよう支援しています。協力病院が隣接し看護師も常駐しており24時間医療連携が図られ、家族等の安心に繋がっています。「いきいき美容教室」の開催、時節ごとの各種花見物・果物狩り・道の駅への買い物など五感を楽しむ外出支援を多く取り入れ、夏祭りには大勢の地域の人々が訪れ、また公民館への手縫い雑巾寄贈をきっかけとした交流も進んでいます。これからも楽しみながら生きがいを感じてもらえるようふれあいの機会を多く設けたいと励んでいる事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 1月 17日	評価結果決定日	平成 30年 2月 7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、日々少しでも近づけるように心掛けている。	「利用者の尊厳を守ります 心に寄り添い笑顔で接します」の理念のもと、できることを手伝ってもらいながら安心して暮らせるよう笑顔で支援している。職員全員で利用者に寄り添い日々の関わりを振り返りながら理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なるべく地域の方々と交流できるよう、今年度は雑巾の寄付を行い、文化祭への作品の出品も行った。	運営推進会議委員を通して情報交換を行い、事業所夏祭りへの招待や地区行事への参加などで地域との交流を図っている。公民館への手縫い雑巾寄贈がきっかけで文化祭に作品展示するなど地域交流を進めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議の開催の際に会話や質問に応じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の項目やヒヤリハット等を報告し、助言や意見を頂いている。出された意見を職員間で話し合っている。	利用者の普段の暮らしや活動、行事時の様子をビデオで見てもらい、取組みなどを報告している。他事業所との取組みの違いや外部評価、自己評価の内容等について意見や助言をもらい運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の方へ伺った際や運営推進会議時、研修時等、意見を頂いたり、問い合わせをしている。	運営推進会議の報告を兼ねて「さわやか通信」を届け、困難事例の相談・事故報告、生活保護・介護関連手続きなどの助言や指導を受けている。また会議や研修等の情報を得て業務に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>日中は施錠せず、鈴やセンサー等で対応している。一人一人が自由に動けるよう努めている。又、内部研修会で知識を深めた。</p>	<p>職員は「拘束のないケア」を理解し、利用者の生活や行動を見守り支援している。離設や不穏な行動のある方には寄り添い話しかけ、一緒に外に出て気持ちが落ち着くようにしている。自由な暮らしの中で起きるリスクについては家族等に説明し理解を得ている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修へ行き、他の職員にも伝達講習を行い、職員間での統一した対応や知識を深めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在該当ケースはないが、必要性があれば家族への説明を考えている。内部研修により知識を深めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にしっかりと御家族様に納得して頂けるよう、時間をかけて説明を行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の開催時や、面会時・電話等で近況報告や意見・要望に応じ取り組んでいる。</p>	<p>家族等には毎月の利用料支払いや誕生会での会食など来訪・面会の機会を設け、また電話連絡時などに利用者の暮らしの様子を伝えながら意見や要望を聞いている。職員の氏名・顔写真を大きく壁に掲げ家族等が話しかけやすい雰囲気作りをしている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の会議や研修会の開催。朝夕の申し送り時だけでなく、気づいた時に、すぐ話ができる関係を作っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外の手当てが支給されている。又、会議の際に個々に意見を出し合い、報告している。有給休暇も取りやすい環境作りに努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量に合った研修に参加し、職員間で情報共有している。	外部研修には希望を取り入れながら力量や経験に合った職員が参加し、受講内容を伝達して全員が共有できるようにしている。管理者・職員間で何でも話し合える信頼関係を築き、新人指導も先輩職員が行い互いのスキルアップに繋げている。	内部研修の充実を図り職員の更なるレベルアップに期待したい。
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交流会を通じ、意見・情報交換を行いながら、ホーム外の職員の意見も取り入れ、サービス提供の質の向上に努めている。	ケアマネジャー会議や懇意の事業所管理者との交流時、レクリエーション活動や介護支援方法の違いなど情報交換を行っている。得た情報をもとに自事業所の取り組みを振り返りケアの質向上に活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面接を行っており、時間をかけて聴き取りを行い、想いや要望を聞き、不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族からも不安や要望を聞き、より良い関係の中でサービスが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み後も定期的に情報把握しており、状態によっては他のサービスをお勧めしている。申し込み段階で、他にどんなサービスがあるのか、当ホーム利用以外の情報も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に調理、洗濯、掃除等できる事の手伝いをして下さっている。里芋の皮むきや、食用菊の調理、料理の味付け等、できる方が中心となって、職員にも丁寧に教えて頂いた。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ家族の宿泊も受け入れ対応している。行事や面会等、時間の許す限り会話する場面を設け、近況報告を兼ねながら意見、悩み等を聴き取りしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、自宅、飲食店、美容院等へ行く機会の確保。気軽に面会に来て頂けるような環境作りにも取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で協力し合いながら家事活動、創作活動を行っている。時には喧嘩もあり、お互いの意見をぶつけ合う場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の経過確認、面会等も行っている。連携先及び家族との連携・調整も行っている。お会いした際には積極的に会話を持っており、ご家族が退所後も顔を出して下さる関係性ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族等からこれまでの生活習慣や生活歴を聞き、更に日頃の会話から希望や要望を聴き取りしている。個別に要望・要求に対して対応出来るよう配慮している。それらの情報は職員間で共有し、ケアに繋げるよう努めている。	普段の何気ない会話や入浴時などに漏らした本音の中から思いを汲み取り、ケース記録等に記入して職員全員が共有している。得意な大工仕事や家事を生活の中に取り入れ、生き生きと満足して過ごせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を基にミーティング等で報告し、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を判断し、本人・家族や医療機関の意見も考慮しながら毎日の申し送りや毎月のミーティングの場で情報の確認・共有をし対応を検討している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、日々のミーティング、家族や医療機関からの情報を基に計画作成し、日々ケアプランに沿った支援・モニタリングをしている。	毎月のケア会議で一人ひとりのプランについて職員全員で話し合っている。利用者・家族等の思いや意向を把握し主治医の意見も取り入れて、現状の暮らしを維持できるようその人に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や気づき等も考慮した上で、カンファレンスやミーティングで情報共有及び見直しを行っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りや、他施設への行事へ参加、又入居者が制作した雑巾を小学校や公民館へ寄付する等し、地域と繋がりが持てるよう支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の情報を取り、出来る限りホームで受診対応している。隣が医院の為、緊急時の対応や、相談等が可能。	協力医院が隣接し、施設長が看護師のため緊急時24時間対応が可能となっており利用者・家族等の安心に繋がっている。協力医を主治医として職員同行で受診し、また従来からのかかりつけ医に家族対応で通院している方もいる。受診内容・結果は電話や帰設時に家族等と話し合い共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為24時間対応が可能。ミーティングにも参加し日々情報共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は面会を行い、医師・看護師と都度情報交換をしている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族・職員・医師にて相談を行い、今後の方針を決定、共有し、ケアプランに基づき実施している。終末期においては、経口摂取ができる状態までを目途に、看取りは行えない事を家族に伝えている。</p>	<p>入居時利用者・家族等に重度化したときの事業所方針を示し、経口摂取が出来る状態までを目標として、看取りは行わないことを説明し理解を得ている。重度化した時は状態の変化に応じて家族等・主治医・職員で話し合いケア方針を決めている。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ヒヤリハット(インシデント)の記載をし、ミーティング時に再度対応策を話し合い、事故防止に努めている。外部研修会に参加し、救急処置及びAED講習受講している。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>同設の居宅介護事業所、有料老人ホームと合同で、避難訓練を実施。運営推進会議の中で避難訓練を実施し、問題点や意見等を頂いた。</p>	<p>年2回、春・秋に地震・河川氾濫災害の夜間想定避難訓練を併設有料老人ホームと合同で行い、消防署の指導や協力を得ながら利用者の避難誘導等の災害時対応について学んでいる。地域からの協力など課題については運営推進会議で話し合い改善を進めている。</p>	<p>隣接アパートや近隣住民にも呼びかけ、地域から災害時協力が得られるような取り組みを今後とも進めていくことに期待したい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人のプライバシーや誇りを大切に、人生の先輩として接し、信頼関係作りを努めている。</p>	<p>日々の関わりの中で一人ひとりが大切に行っていることを汲み取り支援している。他の人に知られたくないことは秘密を守り、着替えや入浴・排泄時は羞恥心に配慮しながらプライバシーを確保している。利用者の思いを共有しその人らしく暮らせるよう研修やケア会議で話し合い支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に選択・表出する機会・場を設けている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし、要望に応じ個別に支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択。買い物への付き添い支援を行った。理・美容店の訪問をお願いし、対応を行った。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に聴き取り、要望に応じている。畑やプランターから収穫したり、得意な料理・季節の料理・おやつ作り等して頂いている。外食や出前を取り、気分転換を図っている。	利用者の希望をメニューに取り入れ、喜んで食べてもらえるよう作っている。食材買い物や下準備・味付け・後片付け、得意料理やおやつ作りなど出来ることを手伝ってもらい皆が楽しんで食事出来るように取り組んでいる。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態を変え提供。好みの飲み物や果物の提供、健康茶等の提供。食事摂取が難しい方は医師の助言・指示により提供。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援している。食事前には嚥下体操を取り入れ、ムセやつまりを予防し嚥下を促進する体操を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導や個々のサインを見逃さないように、排泄表を用いて、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	定時や表情・しぐさからさりげない声かけでトイレ誘導している。自立の方も多いが羞恥心やプライバシーを損なわない介助や見守りを行い、トイレ排泄の自立を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や果物の提供、発酵食品、健康茶等を組み合わせて、出来るだけ自然に排泄出来るよう支援している。水分の自力摂取困難な方には介助を行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方にもなるべく週2回は入浴して頂けるよう、誘導やタイミング見計らった声掛けをしている。季節毎入浴剤を変えて変化を楽しんで頂いている。	利用者の体調や身体状態を観察し、湯温や脱衣場・浴室温に気をつけながら週2回の入浴で清潔感を保っている。毎回入浴剤を換えてリラックスして温泉気分で湯に浸り、介助する職員との会話を弾ませ本音を聞ける機会ともなっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やペースを考え、希望に沿って休息を取って頂いている。夜間中途覚醒が多い場合も、ホットミルクで対応する等、状況に応じて支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、申し送りノートで情報共有されている。服薬まで3回の確認や、薬袋を保存して、飲み忘れや飲み間違い等がないようチェックしている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎のイベントや花見・ドライブの実施。家事活動の支援。塗り絵や工作・手芸、歌等の活動支援。畑や花壇の管理。飲酒(ノンアルコール)の提供。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見学や果物狩り、近所への散歩や買い物。地域の方の訪問や地域の方との畑作業。地域の方々と交流を図っている。	法人他事業所に出かけ合同で敬老会や芋煮会などを行い普段と違う人たちと交流して楽しみ、また毎月外出行事を行い桜や百合などの花見学、新緑や紅葉時期の散策、苺や柿の収穫などで気分転換を図っている。普段から散歩や買い物、天気の良い日のドライブなど個別に支援して利用者から喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、好きな物を選んで買って頂き、立て替え請求している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話での対応で、家族と常に連絡が取れる状況となっている。手紙や荷物のやりとり等、柔軟に支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物・造花を飾り、花の好きな方に喜んで頂いている。居室・食堂・ホールは季節に応じた装飾をしている。朝や夜にはヒーリング音楽をかけたり、冬期間は積雪等で神社へ参拝に行く事が難しい為、手作りの神社にて参拝して頂いている。	ホールは季節が感じられるよう装飾や草花で彩り、テーブル席やソファで利用者同士お茶飲みしながら話しかけのんびり過ごしている。見守りの中で安心して暮らし、ヒーリング音楽を聴きながらゆっくり寛げるスペースとなっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージチェアを設置し、個人で思い思いに過ごされている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している物を持って来て頂き、本人や家族と相談し、意向に合わせた支援を行っている。	思い出の品や写真を飾り、使い慣れた布団や枕でぐっすり休めるようにして居心地良く過ごせるようにしている。毎日の掃除や整理整頓で転倒など事故の無い安全な暮らしに繋げている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、トイレ・浴室・廊下に手すりを設置。転倒予防の鈴やセンサーの設置や見守りの強化等、予防策を講じてより安全に過ごせる様配慮している。			